

保育者のため

幼稚園の遊戯 (其五)

松村 ひさ

これは本誌第四卷第四號所載幼稚園の遊戯の續き
 之は本誌第四卷第四號所載幼稚園の遊戯の續き
 でございす、原書「幼稚園の理論及實際」に
 は前掲の通り大体に付ての注意の上に更に「猶
 遊戯に付て」と題されて居る部分の抜萃でござ
 いす。

人を教へるのに消極的にするよりは積極的にする
 方がよいといふのは眞理である。それ故に二つの
 道の一ツが當然人を危険な方に導くといふ事を知
 つて居る人は、其辻に立つて居つて後から來る人
 に對して指示者となり案内者となり、親切に其安

全な道を教へねばならぬ、併し此場合に單に正し
 い方ばかりを指し示すだけでは不十分なので、行
 つて良くない方の事をも話して、不注意の結果其
 方の道に入り込まぬやうに教へる事も亦誠に必要
 である。それで自分(著者)は、保姆がこういふ事
 を遊戯(協同遊戯)を言ふ以下之に做すの時にして
 はならぬといふ事を少し述べて見たいと思ふ。

先づ最初に、保姆は大砲から飛び出して彈丸の様
 に、其處に集まつて居る幼兒の仲間に向つて熱火
 を與へる様な事をしてはならぬ、あまり突然な問
 を出したり、あまり突飛な事を思ひがけさせた
 りなどして、子供の方ではあわて、しまつて、ど
 うする事もできぬといふ様な場合を作るのはよろ
 しくない。

なるほど之は注意すべき事でございませう。幼

兒の方では考の上は何の用意もなく平靜に氣
 樂に構へて居るところへ、先生獨りが合點をし
 て突然な事を言つたり、したり、させたりいた
 しましたらばどうでございませう。尤も幼兒は
 變化を愛し奇を好みます。協同遊戯がいかによ
 しいものであつてもあまり同じ種類のものをつ
 いけ様に永くさせられたり、おもしろくもない
 事を陰氣にさせられたりなどいたしますと閉口
 するのは自然でございませう。けれども此點をわ
 まり考へ過ぎ又は誤り考へて、いつも／＼新ら
 しい突飛な事で幼兒の注意を惹かう、興味を起
 させようとするのはよくない事で、まして幼兒
 が驚きあわてるまでの刺戟を興へるといふ事
 は、幼兒の心身の爲に害があるばかりでなく、
 遂にはよく／＼珍らしい事でなければ注意をせ

ぬ、通例の事では面白からぬといふ習慣がつき
 ます、そうしてこうなると先生は常に遊戯の新
 工夫に汲汲とすることになります。一の遊戯の
 仕方を一生懸命に何年間も固守して少しも改良
 しようと思せず永い間最初一度定めた通にする
 といふのが極端ならば、毎日新奇々々と突飛な方
 にはばかり考を向けて苦むのも極端かと考へて
 居ります。
 保母は或遊戯の時間を單に其時間の爲特別に其事
 をして居るのに過ぎぬと考へてはならぬ。恩物、
 談話、其他の事柄に關連して効を奏するものであ
 る事を忘れてはならぬ。
 保母はあまり主格なり種類なりのちがふものをば
 ゴタ／＼と順序なく並べ立て組み合せてはならぬ
 もしこつといふ風にすると十分な訓練をする事がで

さぬ。

之もよくある事ではございませうか。あれもよいこれもよいと何でもかでも組み合せて種類や順序を深く考へぬとか、又はまわ此邊にして置かう位で好加減に組み合すとかいふ風でございしましたならば、折角一ツ々の各は貴い面白い遊戯といたしましても、幼児に實行される時には只ゴロ／＼とつゞくばかりであまり利益がないかも知れませぬ。ホンの幼児にさせる遊戯と軽く考へおろそかに組み合せてさせるのと、幼児に適した有益なしかも幼児の喜ぶものを順序よく種類もよく、組み合せてさせるのとは、其効果に大きな差異があらうと存じます。保母は或遊戯から他の遊戯に移る時に、あまりそれからそれへと何の連絡もなくズン／＼變化させ

てはならぬ。之は恒心なき人を作る根本になる。保母はあまり何時も同じ仕方での遊戯をさせてはならぬ。少し變化させると丸で新しいもの、様に幼児は思ふものである。

大阪の保育界

大阪市保育會は、是迄年二回會員の集會を催し、斯道の研究をなしつつありしか、集會には動もすれば議論に流れて婦人會員等は手持無沙汰のことも多ければ、此程常議員四十名、男三十名、女十名を選びて代議機關となし、一月二十七日其第一回を開き左の諸件を議したり。

- 一 常議員會規則を造ると
- 一 出征者の幼児を他の幼児より先じて入園せしめ、又保育料を免除する様各園長へ交渉する